

ウラジオストク滞在に関する報告について（5月分）

1. ウラジオストク国立経済サービス大学（ブグエス）での授業について

4月に引き続き、平日に90分授業を2～3コマ受ける日々が続いています。

通常であれば、学生のレベルに合わせて、学期中でもクラスの変更が可能なようですが、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で留学生が少なく、クラスの数も2つのみ（私の所属しているクラスと1つレベルの低いクラス）で、柔軟に対応することはできないようです。

昨年4月以降、オンラインでの授業が様々な大学で行われていますが、言語の習得に関しては実際に顔を合わせる対面授業の方が効果は高いと考えており、対面授業の再開を待ち遠しく思いながら、授業に臨んでいます。

また、18日（火）には大学の敷地内にある「富山ウラジオストク友好庭園（森本庭園）」の歴史等について学ぶ特別講義が行われました。学生の富山県に対する関心は高いようで、講義室に収まらないほど多くの方が聴講していました。



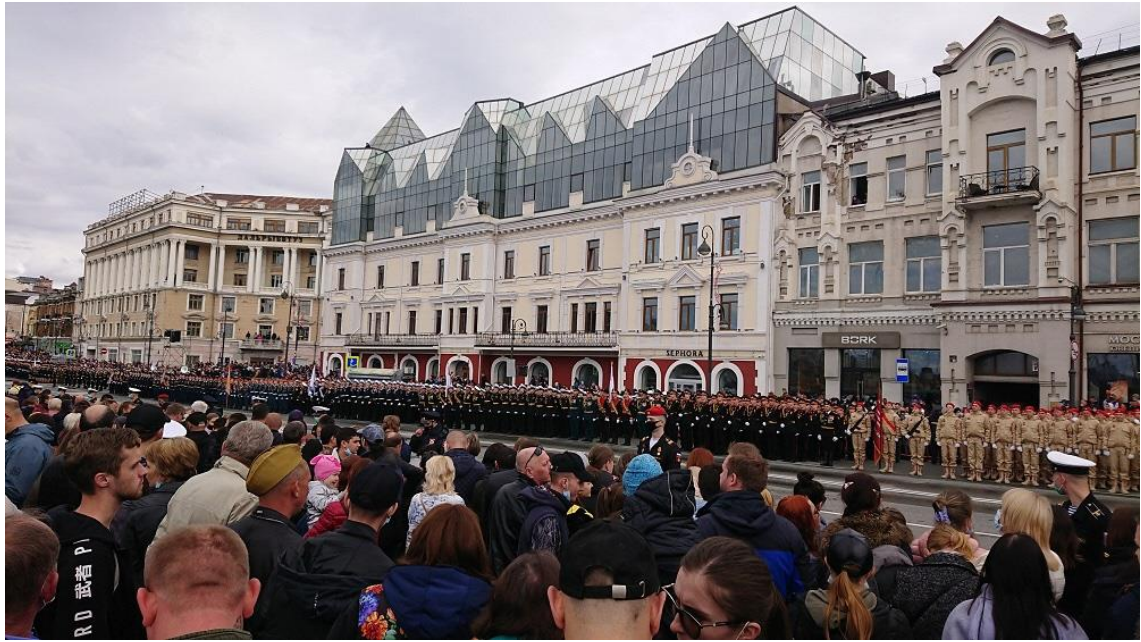
（写真1「特別講義後のレクリエーション」ブグエス公式インスタグラムより）

2. 大型連休について

ロシアでは、5月1日（土）のメーデーから5月9日（日）の対独戦勝記念日までの9日間が連休でした。例年であれば、メーデーにはウラジオストクのランドマークである金角湾大橋が開放され、自由に橋の上を歩けるようなのですが、今年は昨年引き続き、感染拡大を防ぐため、開放はされませんでした。また対独戦勝記念日でも、例年は、

「不滅の連隊」と呼ばれる市民が戦死者を偲ぶパレードが行われるようですが、今年は軍事パレードのみとなりました。

それでも、中心部にある海岸通りでは、特設ステージで様々なイベントが行われ、出店も多く、連日沢山の人で賑わっていました。5月9日（日）には、なかなか日本では見られない規模の花火も上がり圧倒されました。花火が上がるたびに大声でウラー（日本語で「万歳」の意）と叫ぶロシア人もいました。



(写真2 軍事パレード開会式での国家斉唱の様子)



(写真3 軍事パレードの様子)



(写真4 海岸通りの特設ステージの様子)

3. ウラジオストク市内の状況について

・治安状況

今月、当地で日本人が犯罪に巻き込まれたという情報はありません。

在ウラジオストク日本国総領事館からは、レストランやバー、空港等で出待ちしているタクシーや無許可タクシーを利用しないよう注意喚起がありました。

4月下旬、市内で客待ちをしていたタクシー運転手がバーから出てきた男性を暗がりへ連れていき、ナイフを突きつけ金品を奪う強盗事件が発生したことが理由のようです。

・市内の様子

ウラジオストク市のある沿海地方では新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向であるようです。知り合った学生の中には、濃厚接触者になり隔離されている方もいます。

(参考) 沿海地方の新型コロナウイルス感染状況 (6月3日)

累計感染者数 44,514人 累計死者数 735人

1日の感染者数 51人 1日の死者数 2人

・気候

4月に比べると20℃を超える暖かい日が増えてきましたが、平均気温が10℃前後の日も多く、コートが必要な日もあります。また、5月に入ると暖房が一斉に止まるので、室内でも体調を崩さないよう注意が必要です。

中旬からは温水設備の点検のため、市内ではお湯が出なくなっています。給湯器があれば問題はないですが、私の住む寮にそのようなものは無く、6月4日(金)現在も冷たい水を浴び続けています。最初の数日間は苦痛でしたが、その後は特に何も思わなくなりました。